

# 伊勢・三河湾貧酸素情報 (H30-5号)

平成30年7月5日

愛知県水産試験場 漁場環境研究部

平成30年7月2、3日に伊勢湾、7月3、4日に三河湾において貧酸素水塊の調査を実施しました。その結果は下記のとおりです。

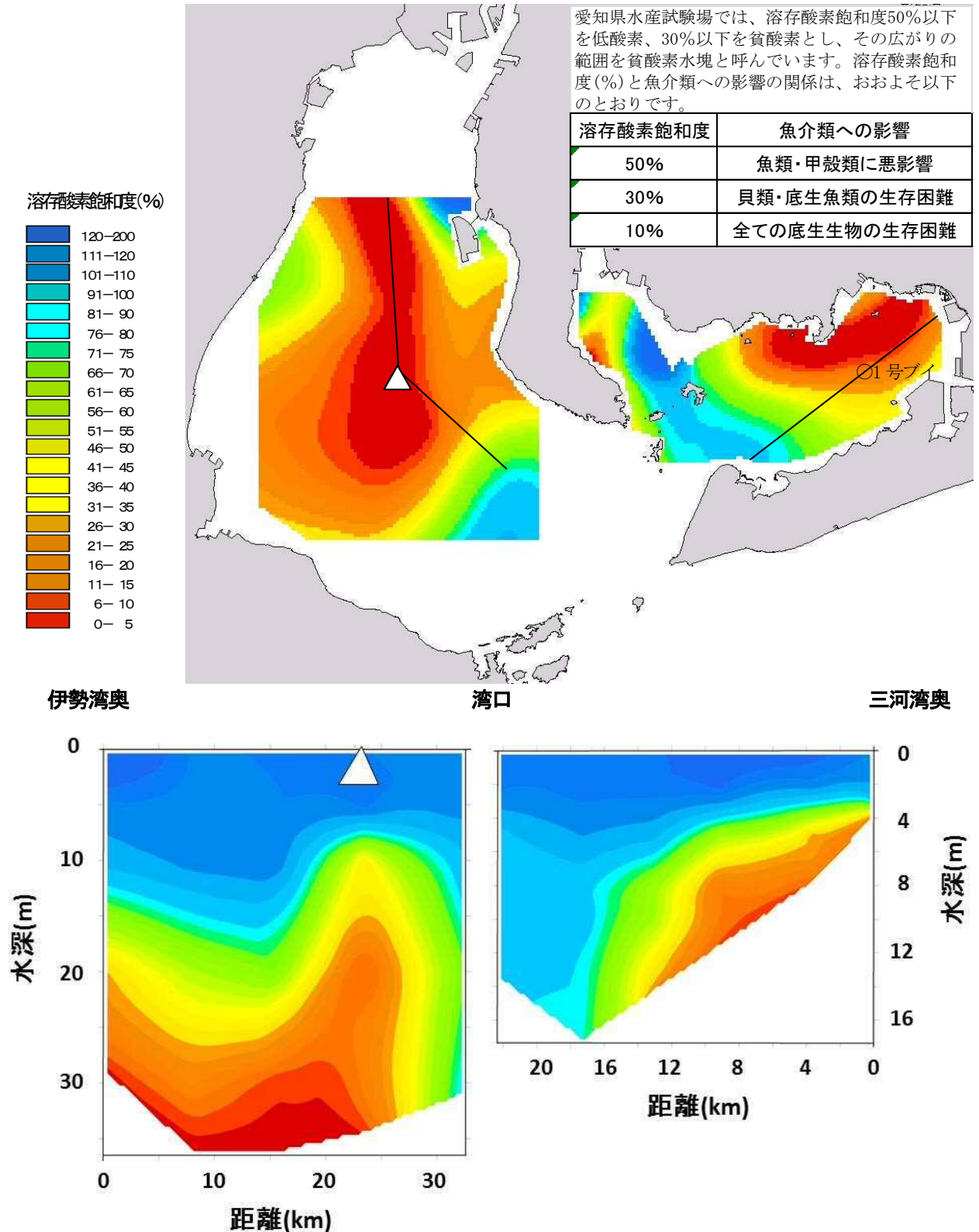


図1 伊勢湾 (7月2、3日)・三河湾 (7月3、4日) 底層の溶存酸素飽和度の分布 (上図) 及び上図直線部分の鉛直分布 (下図) (愛知県「海幸丸」、「へいわ」調査)

### 伊勢湾

7月2、3日の調査結果を図1に示しました。前回調査（6月21、22日）に比べ、貧酸素水塊の範囲が拡大していました。

今後は、台風第7号の影響による海水の上下混合が貧酸素水塊の発達を抑制すると予測されますが、その後は再度、貧酸素水塊が発達すると考えられます。

表1 調査時の水温・塩分

	水温(°C)	塩分
表層	23.9~27.4	15.5~31.2
底層	16.1~26.2	25.5~33.8

### 三河湾

7月3、4日の調査結果を図1に示しました。前回調査（6月22日）に比べ、渥美湾奥部で貧酸素水塊の範囲が拡大していました。知多湾では美浜町沖で溶存酸素飽和度10%以下の貧酸素水塊が確認されました。

三河湾海況自動観測ブイ1号ブイ（蒲郡沖）のデータをみると、29日に風速4.6~9.4m/s（平均7.1m/s）の南から南南東の風が断続的に吹いた影響により貧酸素水塊は一時的に解消しましたが、30日以降再び発達している様子が観測されました。また、台風第7号の接近にともない7月4日から風速8.0~11.4m/s（平均8.9m/s）の南南東から南南西の風が断続的に吹いた影響により、貧酸素水塊が縮小している様子が観測されました（図2）。今後は再度、貧酸素水塊が発達すると考えられます。

表2 調査時の水温・塩分

	水温(°C)	塩分
表層	25.2~28.4	23.5~30.8
底層	20.7~27.8	28.2~33.2

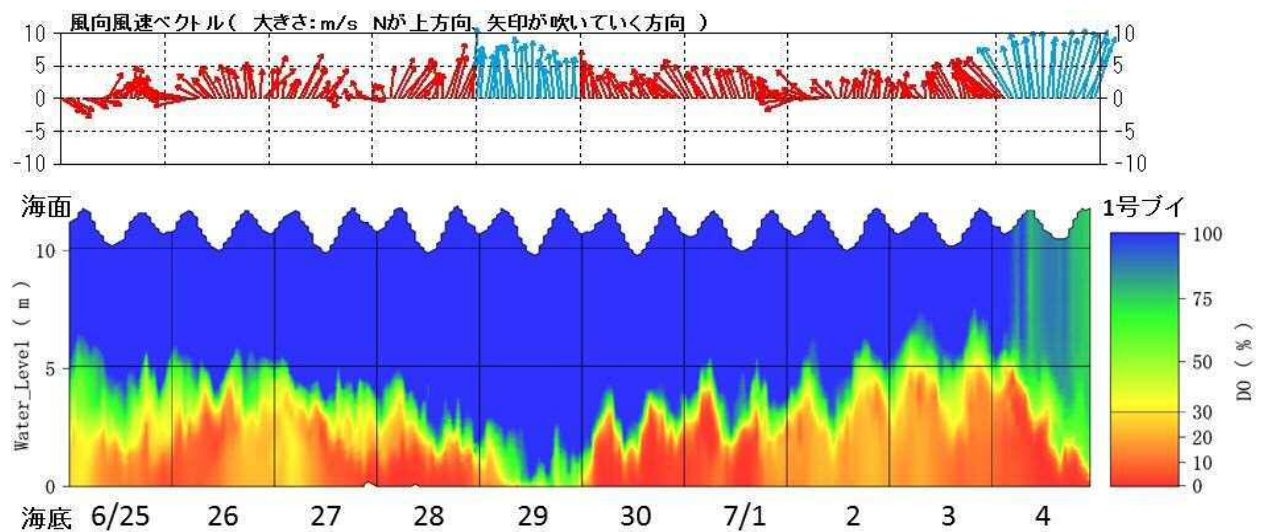


図2 風向風速の経時変化（上図）及び溶存酸素飽和度（DO）の経時変化（下図）  
（三河湾海況自動観測ブイ1号ブイ）

## 参考

前回調査時の底層の溶存酸素状況

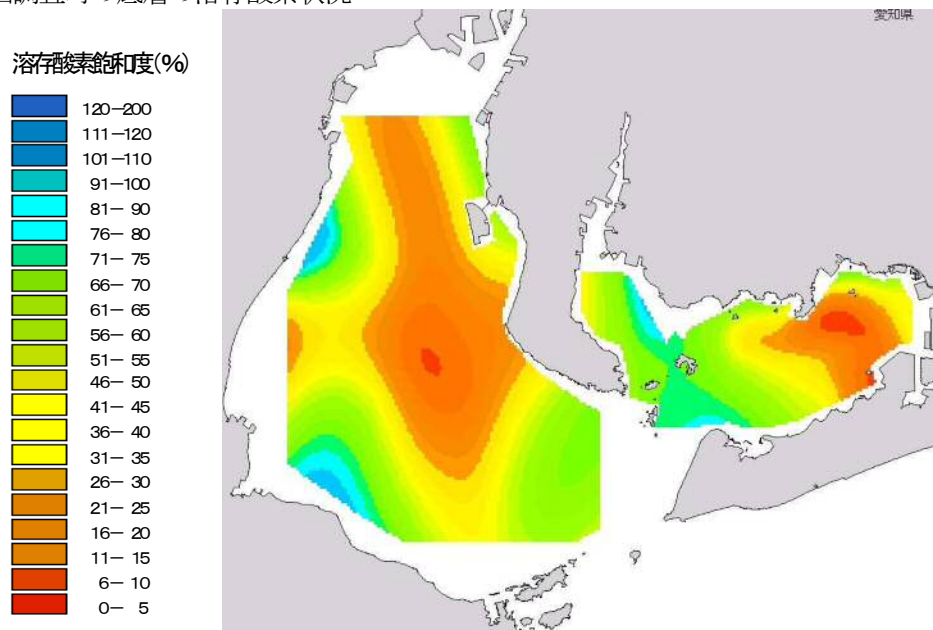


図3 平成30年6月21、22日（伊勢湾）、6月22日（三河湾）